

●能登半島地震発災時における能登空港での雨水利用

能登空港では元々、施設の屋根に降った雨水を地下にある雨水貯留槽（500m³）に貯め、トイレ洗浄水に使用。

能登半島地震の際、水が止まって給水車が来ていない状態でも、非常用発電を使ってポンプで水を汲み上げて空港内のトイレ洗浄水に使用。

給水車が来るまでの1週間、雨水のみでトイレ洗浄水を使用することができた。

■主な経緯

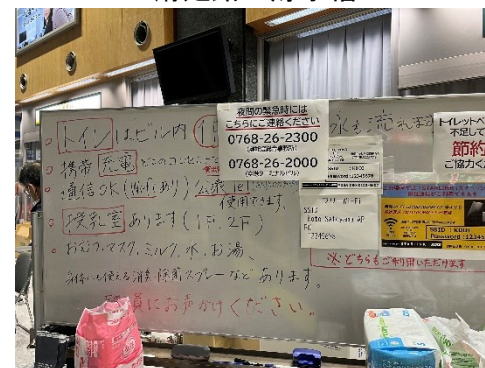
- 1/1 能登半島地震(輪島市震度6強)発生
断水、停電
非常用発電で火災が発生したため、ポンプで水を汲み上げることができず、雨水利用もできなかった。
- 1/2 非常用発電を復旧し、水をポンプアップしてトイレ洗浄に使用開始(トイレ洗浄のみで手洗い不可)
- 1/6 給水車の給水開始
給水車の給水と組み合わせることで、トイレ洗浄と手洗いも可能に。
避難者、地域住民、自衛隊、消防隊、警察官等1日3,000人(推定)がトイレを使用。
- 1/30 上水道復旧(雨水利用は災害前と同様に継続)



滑走路の貯水槽

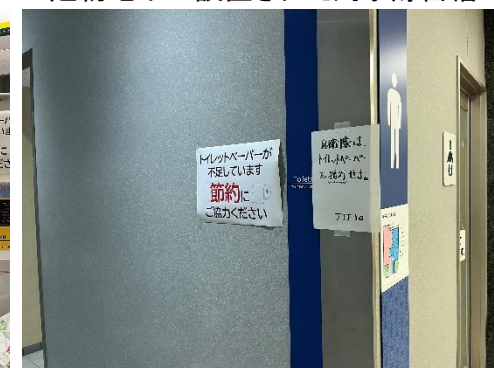


建物地下に設置された雨水貯留槽



能登空港でのトイレ使用状況

出典：国土交通省



■施設概要

- 名称：能登空港ターミナルビル
- 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造4階(一部地下1階)
- 面積：9,491.82m²
- 所在地：石川県輪島市三井町洲衛 地内
- 完成：平成15年(2003年)
- 雨水貯留槽容量：500m³

出典：石川県ホームページ

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/noto/airport/airport.html>

平時から雨水の利用を進め、発災時の代替水源として備えることが重要。